

芦屋市街路樹更新計画(原案)に係る市民意見募集【実施結果】

1 募集期間:令和2年12月14日(月)~令和3年1月22日(金)

2 提出件数:6人/10件

3 意見の趣旨及び市の考え方

取扱区分:A(意見を反映)0件, B(実施にあたり考慮)4件, C(原案に考慮済み)3件, D(説明・回答)3件

意見No.	基本方針	該当箇所	市民からの意見(概要)	取扱区分	市の考え方
1	Ⅲ	1 -	管理経費の削減が視点の中心となっているように感じる。行政コストを安くあげる視点ばかりが目立つように思う。 街路樹の根が下水管に入り込み、排水不良を起こしている事例があるが、これに対する対策が示されていない。こうした二次的な経費についても、見ていく必要があると考える。また、敷地内の下水管に入って詰まらせることも考えられ、対策が必要であると思う。	D	本計画の目的は、財政面も考慮し、持続可能で質の高い緑を充実させることです。本計画では、街路樹が市民生活を侵害しないよう、危険樹木や不適合木の撤去も方針としているところで、その中で隣地への侵入木の撤去・植替や植樹の際の植栽基盤の整備によって対応する考えとしております。また、実際に街路樹の根による下水管の詰まりに対する二次的な経費については、今後対応のための予算確保を継続してまいります。
2	Ⅰ Ⅱ Ⅴ	3 (2) 1 ④	現状分析はされているが、過去に植樹した際に、数十年後の姿を想定して植樹したのではないと感じる。このあたりの分析がなければ、また同じことが繰り返されるだけである。PDCAサイクルをしっかりと回して、計画を策定したとは思われぬ。	C	過去の植樹については、3ページにこれまでの取組みを記載している通り、街路樹の本数を増やすことや、管理方針を無剪定仕立てとしてきたことで、緑量は満足のいくレベルに達してきました。一方で、老木化や道路空間に対する支障といった問題が発生しており、今後は緑の量から質を向上させる方向へ転換させるため、本計画を策定しているところです。本計画においては、42ページに示すように、PDCAサイクルに基づいて、計画を推進していくものとしております。
3	Ⅳ	② -	市民との協働の内容がない。落ち葉の対応については、沿線の住民にとっては、頭の痛い問題である。しかし、沿線を離れるとこうした不満は少なくなり、街路樹が評価されることになる。ということは、自治会の中では、街路樹に関する意見がまとまらない可能性が高く、自治会が協働のパートナーとはなりにくいと考えられる。	C	市民との協働につきましては、40ページで示しているような、地域、特に沿道住民の負担を、地域全体や行政で分担することで軽減できるような形で協働した落葉清掃のあり方を検討し、制度や体制づくりを進めていくこととしております。
4	Ⅳ	② -	落ち葉対策が街路樹の問題であると思われるが、落ち葉清掃を有償にして沿線の住民、高齢者の方の仕事づくりに位置付けてはどうだろうか。毎日1時間の落ち葉清掃に時間給が支払われるとなれば、地域貢献というやりがいも生まれ、生活の足しにもなる。ボランティアだけではそろそろ無理が来ているのではないだろうか。検討し、計画に組み込んでいただきたい。	B	清掃活動等の有償化については、個人への給付ではありませんが、現在、自治会等が地域内を清掃された場合に補助金を給付する街の美化推進事業補助金を設けているところです。しかしながら、自主的なコミュニティ活動の振興のための事業であり、日常的な落葉清掃に特化した制度ではありません。今年度は、芦屋市から福祉団体等への歩道清掃業務委託や自治会からボランティア団体への協力要請により清掃作業の負担の軽減に効果が現れました。今後も市民との協働につきましては、費用面も含めて協力していただいている地域の方々の負担を軽減するような制度や体制づくりを進めるよう、ご意見をうかがってまいります。
5	Ⅱ Ⅳ	1 (1) ② -	朝日ヶ丘線のイチヨウの枝がバツサリと剪定され、色づくイチヨウの変化を楽しみにしていた地域の住民から、悲嘆の声が上がっている。今回の整備計画では、このようなことが定期的に行われるということなのか？広範な沿線住民の意見を聞く仕組みを作ることではできないか。	B	これまでは樹木の剪定を行う際に、落葉の多い路線については時期を調整していた側面もあり、ご意見をいただいている状況となっております。本計画では、地域住民の負担を軽減できるような形で協働した落葉清掃のあり方を検討し、四季を感じてもらえるような街路樹の維持管理を進めていきたいと考えております。
6	Ⅱ Ⅳ	1 (1) ② -	落葉が問題だからといって木を切るのはやめてほしい。美しい町には樹が必要。	B	これまでは樹木の剪定を行う際に、落葉の多い路線については時期を調整していた側面もあり、ご意見をいただいているような状況となっております。本計画では、地域住民の負担を軽減できるような形で協働した落葉清掃のあり方を検討し、四季を感じてもらえるような街路樹の維持管理を進めていきたいと考えております。

意見No.	基本方針	該当箇所		市民からの意見(概要)	取扱区分	市の考え方
7	Ⅲ	2	(2)	「街路樹の配置整理と適正な維持管理のイメージ」にある間引きと補植の時間を数年あけるのは、樹木の生育に不バランスを生じさせるのでやめたほうが良い。若木が被陰されて生育不良や片枝になる。	C	現状の街路樹景観を保ちつつ植替えを行うため、路線全体の樹木を一度に更新せず、時間をあけて更新するという考えに基づきイメージしております。21ページに示している配置整理として、樹木間隔を適正なものにしていきますので、植樹に際して生育不良の原因となる既存樹木からの被陰の影響は軽減されると考えておりますが、補植箇所については各路線ごとに状況を見て対応してまいります。
8	V	2	-	3年に一度では樹形の細かな管理は難しい。隔年が最低ラインと考える。もっと樹種を考えてメリハリをつけてください。ケヤキ、マツは3年で基本剪定でいい。ケヤキは枝抜き剪定で。イチヨウやユリノキは隔年。サクラ、ハナミズキは枯れ枝切除や都度剪定でいいかと。	B	本計画では、重点管理路線を選定し、それらの路線については剪定頻度を短くする等、細かな管理を行ってまいりたいと考えております。また、樹種ごとの管理については、原案中では基本的な考えを示しており、ご意見を参考にして樹種ごとの剪定方法を実施計画に反映させてまいります。また、実際の剪定の際には、樹木の育成状態を考慮して適切な剪定を行ってまいります。
9	Ⅳ	①	-	芦屋の街にジャカランダを。芦屋は気候も合うと思う。阪神電車のホームから見える松の間などに是非植えてほしい。	D	樹木の植替、樹種の選定については、地域住民等との調整のうえ、意見を反映しながら進めてまいります。